

令和8年度

「運営に関する計画」

【年度初め】

大阪市立緑中学校
令和8年4月

大阪市立緑中学校 令和8年度 運営に関する計画

【校訓】 至誠・勤勉・協同

【教育方針】

1. 真理と正義を愛し、実行力に富む人間を育成する。
2. 責任を重んじ、勤労を尊び、自主的精神の盛んな人間を育成する。
3. 心身ともに健康で、よく他人と協調して、文化社会を形成する民主的な人間を育成する。

【学校教育目標】

1. 人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる。
2. 個性の違いを認め、思いやりのある心を育てる。

【大阪市教育振興基本計画 基本理念】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【学校経営の重点】

1. 「深い学び」および「わかる」授業の質的向上と充実に努める。
→校内研究授業、学力向上支援チーム事業、学力向上プラン（習熟度授業）
カリキュラムマネジメント、総合的読解力育成カリキュラム（R7～）
全国学力・学習状況調査
2. 子ども理解を深め、生徒指導についての共通理解と校内指導体制の確立をはかる。
→生徒指導研修会、特別支援教育研修会、学年会、職員会議、主任会
不登校対応、いじめ対策委員会、スクリーニング会議
3. 健康生活の習慣化、安全管理の徹底、食習慣の定着化をはかる。
→校内研修会、安全・防災に関するマニュアル、ほけんだより、食育だより
4. 家庭、地域、校区小学校、関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりの推進をはかる。
→学校協議会、個人懇談会、学期末懇談会、進路懇談会、進路説明会
部活動見学会（小中連携）、生徒会児童会交流会（小中連携）
学校ホームページ、学校説明会（学校選択制）
オープンスクール（授業参観）、新入生保護者説明会、中高連携
5. 職員間での情報の共有化を務めるために、報告・連絡・相談を密にする。
→職員会議、企画委員会、学年会、主任会、S K I P連絡掲示板

《めざす学校像》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む学校。
→「深い学び」の推進、総合的な学習の時間の充実
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む学校。
→特別活動の充実、1年校外学習、2年校外学習、3年修学旅行、文化発表会
3. 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む学校。
→性についての学習、食育、体育大会、全国体力・運動能力調査
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む学校。
→キャリア教育、職業講話、人権学習、LGBTQ、平和学習、SDGs
国際理解学習
5. 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む学校。
→PTA活動

《めざす生徒像》

1. 学力向上および進路実現のために粘り強く学び続け、努力を惜しまない生徒。
2. 他者とのちがいを尊重し、思いやりのある言動と行動ができる生徒。
3. 自分自身の健康の管理を自分で把握でき、体調が悪いときはどのように対応すべきなのかを判断できる生徒。
4. どんな状況でもしっかり考え、行動できる生徒。
5. 自分を取り巻く人や地域・社会と関わり、たくましく生きていける生徒。

《令和8年度の研究テーマ》

- ① 生徒の「深い学び」を実現する教育活動の充実
- ② 生徒が「主語」になる教育活動の実現
- ③ 生徒が**学習者用タブレットを活用**し、学びを深める教育活動の推進

《めざす教職員像》

1. 授業や行事、校務分掌をはじめとした職務に関するスキルアップに、挑戦し、謙虚に学び続ける教職員
2. 子どもの生徒理解を深め、受容・寛容・共感・称賛・激励し、子どもの成長を願い、子どもに寄りそう豊かなかわりができる教職員
3. 組織で考え、協働し、職員に対しても受容・寛容・共感・称賛・激励することができ、職場の心理的安全性を高めることができる教職員

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

- 本校は「人にやさしい教育を推進し、個性の違いを認め、思いやりの心を育てる」を教育目標に掲げている。また、学校には、「いじめ防止対策推進法」に基づき、すべての生徒が安全に教育を受けられる環境づくりが法律で義務付けられている。本校では、①「**心理的安全性**」が高い学級集団づくり、②組織的対応を行っている。
- 本校では学校グランドデザインに「子どもが『**主語**』になる教育活動の推進」を掲げている。子どもが主体的になるには、「**誰もがありのままの自分であることができ、恐れず何にでも挑戦できる環境づくり**」が必要であると考えている。これは「**心理的に安全な状態**」であり、心理学では「**心理的安全性**」と言われる。

「失敗したらみんなに責められるのではないか…」

「間違ふとみんなから笑われるのではないか…」

「違う考えや反対意見を言うと否定されるのではないか…」

「学校を休むと周りから理由を問い詰められるのではないか…」

このような不安をもちながらの学校生活は、いじめや不登校、学ぶ意欲の喪失の原因につながることは自明である。

- 家庭での「**心理的安全性**」も必要である。「**心理的安全性**」の低い家庭環境は、**過保護・過干渉、過度な期待、夫婦喧嘩、条件付きの愛情、感情的な叱責等による心理的虐待、暴力による身体的虐待**の特徴がある。一方、「**心理的安全性**」の高い家庭環境は、子どもの自己肯定感、自立心、コミュニケーション能力、ストレスへの抵抗力が高い特徴がある。学校での生活指導においては、子どものトラブルの事象だけではなく、家庭環境や成育歴などの背景、子どもの特性も理解しながら指導していくことが求められる。
- 家庭での「**心理的安全性**」を高めるために、令和8年1月21日の新入生保護者説明会において、「**思春期の子育て**」についての説明を行った。
- 組織的対応の一つに定期的なアンケートがある。毎月実施している「**いじめアンケート**」(令和3年度よりスクールライフノートを活用)や各学期はじめの「**教育相談**」、「**相談申告機能**」

(スクールライフノート機能)などを通じて、認知したいじめについては迅速な解消を図った。また、アンケート等はいじめ防止の意識向上や生徒の不安・悩みを把握するための情報収集にも大きく寄与した。しかしながら、「心の天気」(スクールライフノート機能)の活用が極めて低く、課題であった。令和7年2月より「心の天気」の入力を推進する取り組みを開始している。また、先生や学校カウンセラーに日常的に「ちょっとしたこと」を相談できる雰囲気づくりを大事にしている。

- 週1回、生徒指導委員会を開催し、各学年のトラブルへの対応を協議している。毎日、朝の学年打ち合わせでは、気になる生徒の情報交換を行っている。いじめは、「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こり得る」という認識のもと、「**学校安心ルール**」を活用し、**早期発見・早期対応**に努めている。
- SNSトラブル(他者を傷つける言葉や画像の投稿等)は増加傾向にある。その背景要因は①心理的・発達の要因、②デジタルリテラシーと認識の不足、③社会的・環境的要因が挙げられる。これらの背景要因より、学校では道徳の授業や日々の教育活動を通して、思いやりの心や個のちがいを認め、お互いを大切にする集団の育成をはかることで、現実世界でのいじめや暴言・暴力のない学校づくりに努めている。ネット上のSNS空間対策として、不定期であるが、通信業者によるスマホ・ケータイ安全教室を開催し、トラブルを未然に防ぐための知識や心構えをもたせている。令和7年4月より、家庭でのデジタルリテラシーの向上をはかるため、「**情報モラルチェック**」を生徒と**保護者対象**に実施し、SNSトラブルが起こりにくい環境をつくる取り組みを行っている。
- 本校では図書室が不登校生徒の一時的な「安心できる場所」(心理的安全性のある空間)となっている。本校では学校全体で担当スケジュールを組み、多くの教職員が常駐している。また、スクールカウンセラーやこどもサポートネットなどの関係諸機関とも連携をとり、さらには学校スタッフや学校実習の大学生の協力を得て不登校生徒の対応を行っている。学習支援や雑談をとおして、時間をかけて関係をつくり、「不安」の解消をはかっている。不登校生徒を担任だけで抱え込まない組織的な対応は、教職員の負担軽減につながる。不登校生徒数に劇的な変化は見られないが、不登校をかかえる保護者には信頼できるシステムとなっている。令和5年11月より、給食提供を積極的に行っている。「給食だけでも食べに来ないか?」という声かけも行い、登校する回数を少しずつ増やしている。

- 学期末時点での本校の「不登校」に分類される生徒数を次に表す。

【1学期末】

| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 1年 | 人数 | 8 | 6 | 7 | 7 | 3 |
| | 在籍比率 | 2.7 | 2.2 | 2.7 | 2.4 | 1.1 |
| 2年 | 人数 | 24 | 15 | 9 | 6 | 16 |
| | 在籍比率 | 8.1 | 5.1 | 3.3 | 2.3 | 5.4 |
| 3年 | 人数 | 17 | 32 | 24 | 7 | 7 |
| | 在籍比率 | 6.3 | 10.7 | 8.2 | 2.5 | 2.7 |

(「生活指導にかかる調査(1学期)」より)

【2学期末】

| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|----|------|----|------|-----|-----|-----|
| 1年 | 人数 | — | 10 | 13 | 11 | 13 |
| | 在籍比率 | | 3.6 | 5.1 | 3.8 | 5.1 |
| 2年 | 人数 | — | 18 | 15 | 11 | 18 |
| | 在籍比率 | | 6.1 | 5.4 | 4.3 | 6.2 |
| 3年 | 人数 | — | 32 | 24 | 12 | 16 |
| | 在籍比率 | | 10.7 | 8.2 | 4.3 | 6.2 |

(「生活指導にかかる調査(2学期)」より)

- 複数の教職員が不登校生徒に対応することで、複数の視点で不登校生徒一人ひとりにていねいに向き合うことができる。現在行われている図書室での別室登校は、不登校の生徒だけではなく、不登校の子どもをもつ保護者に大きな安心感を与えている。保護者の安心感は子どもに余裕をもって向き合う保護者の態度をつくることは言うまでもない。令和3年度から、学習者用端末を利用したオンライン学習で、自宅にいる不登校の生徒とつながる選択肢もつくっている。これらの人的なサポート、ICTを活用した学習サポート等を活かして不登校の生徒とのつながりを切ることなく、登校に向けた積極的な支援を実施し、不登校の生徒の自立をはかる。令和6年度より生活指導部に「不登校担当」の役職を置き、不登校対応を本格的に取り組んでいる。
- 管理作業部では、学校施設の整備・修理を積極的に行い、令和5年度より下校指導を行っている。事務部でも、各部各学年等の要求にこたえ、学校施設の整備を充実させ、計画的に予算執行を行っている。
- 大阪では、上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震等の発生やそれに伴う大規模な災害が懸念されている。災害発生時に「減災」の考え方を踏まえ、危険を回避するために主体的に行動することが求められる。防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度

の育成をはかる。令和6年度より「危機管理マニュアル」の大幅な見直しを行った。毎年4月には職員研修を行い、共通理解をはかっている。令和7年度は、健康安全部が「防災デイ」を企画し、本校の避難訓練を専門家に見学していただき、評価を得た。

- 本校は、令和4年度に道徳推進拠点校として研究発表を行った。答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「**考え、議論する道徳**」の授業を充実させるための研究を推進し、事業終了後も実践研究を続けている。
- 特別支援学級数を次に表す。

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 |
|------------|----|----|----|----|----|----|
| 人数 | 37 | 45 | 44 | 37 | 26 | 26 |
| 学級数 | 8 | 9 | 8 | 6 | 5 | 5 |
| 通級指導 教室 | — | — | — | 1 | 1 | 1 |

- 特別支援学級に在籍する生徒にきめ細やかに対応するため、令和8年度より、「新たな学級編制」へと変更となる。具体的には、障がい種別ごとに生徒数の合計を8で除して算出するのではなく、障がい種別ごとに同学年の生徒で編制することを原則とし、複式学級編制の考え方を適用するものである。市教委からの報告では、比較的規模が大きい学校で特別支援学級数が増加する。
- 特別支援教育は、つまずきがある生徒の価値や能力を高め、自信と希望をもたらす教育である。そのつまずきは「多様性」に富むものであり、だからこそ私たち教師の指導のレパートリーが増えるのだとも言える。生徒たちの自信を支え、中学校生活を一層充実させるためにも、まずは一人ひとりの教師が「多様性があるからこそ学びは深まる」という意識に変わることから始めてみるのが大切ではないだろうか。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《学力向上の取り組み》

【国語】

- 全国調査における国語の平均正答率の全国比および領域別の全国比を次に表す。

| | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--------------|------|------|------|------|------|------|
| 平均 正答率 | 1.03 | 0.93 | 1.00 | 0.96 | 1.02 | 1.01 |
| 話すこと 聞くこと | 1.01 | 0.92 | 0.95 | 0.99 | 0.99 | 0.95 |
| 書くこと | 1.02 | 0.86 | 1.05 | 0.98 | 1.01 | 1.05 |
| 読むこと | 1.05 | 0.92 | 0.98 | 0.94 | 1.02 | 1.04 |

- 大阪府チャレンジテスト（3年、国語）の平均正答率の府比を次に表す。

| | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|
| 平均 正答率 | 1.08 | 1.03 | 1.06 | 1.04 | 1.06 | 1.05 |

- 令和7年度の全国調査の国語の平均正答率は全国水準を保っている。大阪府チャレンジテストでは府平均を大幅に超えている。
- 本校の学習指導は「話すこと・聞くこと」の領域を重点的に行い、学校力UPベース事業を活用してきた。全国調査と大阪府チャレンジテストの結果より、学力UPベース事業の一定の成果はあると考える。令和8年度から、国語の学力向上は「総合的読解力」の取り組みに委ね、理科で学校力UPベース事業を活用していく。

【数学】

- 全国調査における数学の平均正答率の全国比および領域別の全国比を次に表す。

| | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 平均正答率 | 1.05 | 0.96 | 0.97 | 1.00 | 0.99 | 0.97 |
| 数と式 | 1.10 | 0.91 | 0.98 | 1.07 | 1.02 | 1.02 |
| 図形 | 1.03 | 0.94 | 1.01 | 0.97 | 1.01 | 1.01 |
| 関数 | 1.09 | 1.00 | 1.00 | 0.93 | 0.98 | 0.91 |
| データの活用 | 1.03 | 1.02 | 0.91 | 1.01 | 0.97 | 0.92 |

- 大阪府チャレンジテスト（対象：3年、数学）の平均正答率の府比を次に表す。

| | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 平均正答率 | 1.04 | 1.02 | 1.03 | 1.00 | 1.04 | 1.00 |

- 令和7年度の全国調査の数学の平均正答率は概ね全国水準を保っている。大阪府チャレンジテストでは府平均を維持している。
- 全国調査と大阪府チャレンジテストの結果より、数学の基礎基本の学力はあり、学力UPベース事業の一定の成果はあると考える。令和3年度から全国調査の出題傾向が新しくなった。中学1年から全国調査が求める学力を着実に段階的に定着させ、中学1年からの定期テストや実力（課題）テストの結果を検証の材料とし、学力UPベース事業を活用していくことが求められる。
- 令和8年度より、新事業「ティーチング・エンパワーメント事業」を活用していく。効果検証の対象教科は数学科とし、若手育成を計画的に図っていく。

【英語】

- 英語では、これまでの知識重視の学力から、知識に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を加えた統合型の学力が求められるようになった。日ごろの授業では、C-NETの活用、ペアワーク・グループワークなどの学習形態の工夫を行い、主体的なコミュニケーションをはかることを目指している。大阪市英語力調査（GTEC）（対象：中学3年生）を領域別の市比を次に表す。

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------|------|------|------|------|
| 読むこと | 1.07 | 1.02 | 1.03 | 1.02 | 0.99 |
| 聞くこと | 1.03 | 0.98 | 1.04 | 1.01 | 1.00 |
| 書くこと | 1.07 | 1.02 | 1.12 | 1.00 | 0.96 |
| 話すこと | 1.00 | 1.00 | 1.07 | 1.01 | 0.97 |

- 大阪府チャレンジテスト（対象：3年、英語）の平均正答率の府比を次に表す。

| | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 平均正答率 | 1.02 | 1.04 | 1.04 | 1.07 | 0.99 | 1.02 |

- 英語の基礎基本の学力はあり、学力UPベース事業の一定の成果はあると考える。中学1年から大阪市英語力調査が求める学力を着実に段階的に定着させ、中学1年からの定期テストや実力（課題）テストの結果を検証の材料とし、学力UPベース事業を活用していくことが求められる。
- CEFRA1レベル（英検3級程度）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校 | 59.8 | 59.2 | 64.2 | 60.4 | 58.9 |
| 大阪市 | 52.6 | 55.8 | 54.3 | 57.5 | 60.3 |

※大阪市では、GTECのトータルスコアの440点以上をCEFRA1レベル相当以上としている。

【無回答率】

- 最後に、全国調査の国語と数学の無回答率を次に表す。

(国語)

| 無回答率(%) | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 本校 | 3.2 | 6.7 | 5.8 | 4.8 | 4.0 | 6.4 |
| 全国 | 2.6 | 4.4 | 4.3 | 4.6 | 3.9 | 6.7 |

(数学)

| 無回答率(%) | R1 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------|-----|------|------|-----|------|------|
| 本校 | 7.4 | 14.2 | 12.3 | 9.5 | 12.8 | 11.2 |
| 全国 | 7.3 | 11.2 | 10.8 | 9.6 | 11.3 | 10.6 |

- 令和7年度から実施の「総合的読解力」を中心に課題解決学習を展開し、「話し合い活動」「表現活動」を充実させ、「読解力」「思考力」「表現力」をつける。課題解決学習の取り組みにおいて培った「答えのない課題に対して、粘り強くあきらめない態度」は、「難しい課題にチャレンジする態度」につながる。このことは今後、無回答率の低さに現れることが期待される。

《体力の向上》

- 本校は、部活動の参加率が9割近い。コロナ禍において、部活動や保健体育の授業内容、体育大会の内容が制限され、体力不足も懸念される。筋力トレーニングは、各自で行うことができるが、柔軟性を高めるストレッチングは、多少の専門性を必要とする。保健体育科の授業では、「**柔軟性を活かした身体づくり**」に力を入れ、体力向上だけではなく、免疫力の向上をねらっている。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技の全国比を次に表す。

【男子】

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 握力 | 1.05 | 1.00 | 0.97 | 0.92 | 1.00 |
| 上体起こし | 1.12 | 1.15 | 1.04 | 1.15 | 1.04 |
| 長座体前屈 | 1.01 | 1.07 | 0.98 | 1.02 | 0.90 |
| 反復横とび | 1.08 | 1.08 | 1.07 | 1.08 | 1.00 |
| 持久走 | — | — | — | — | — |
| 20m シャトルラン | 1.06 | 1.09 | 1.11 | 1.09 | 1.04 |
| 50m 走 | 1.01 | 1.00 | 0.99 | 0.97 | 1.04 |
| 立ち幅とび | 1.00 | 1.04 | 1.03 | 1.01 | 0.98 |
| ハンドボール投げ | 1.02 | 0.96 | 1.04 | 1.00 | 0.97 |
| 体力合計点 | 1.08 | 1.08 | 1.05 | 1.08 | 0.96 |

※ 50m 走は 1.00 より小さければ全国平均よりも速く、大きければ遅いことを示す。(タイムは小さいほど早い
ため) 50m 走の表示例：全国比 0.98 (全国平均より約 2%**速い**)

【女子】

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 握力 | 0.98 | 0.95 | 1.01 | 0.94 | 1.01 |
| 上体起こし | 1.00 | 1.12 | 1.08 | 1.15 | 1.05 |
| 長座体前屈 | 0.99 | 0.98 | 0.99 | 0.99 | 1.03 |
| 反復横とび | 1.00 | 1.06 | 1.01 | 0.99 | 0.98 |
| 持久走 | — | — | — | — | — |
| 20m シャトルラン | 0.94 | 1.01 | 1.06 | 1.05 | 1.07 |
| 50m 走 | 1.04 | 1.01 | 0.99 | 0.99 | 1.04 |
| 立ち幅とび | 0.96 | 1.03 | 1.00 | 0.99 | 0.98 |
| ハンドボール投げ | 0.87 | 1.01 | 0.92 | 0.89 | 0.89 |
| 体力合計点 | 0.94 | 1.03 | 1.02 | 0.99 | 0.97 |

- 令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の実技の結果では、男子は8種目のうち、(4)種目(R6：7、R5：6種目、R4：6種目、R3：7種目)が全国平均を上

回っていた。令和7年度の同調査で、女子は8種目のうち(4)種目(R6:3種目、R5:6種目、R4:5種目、R3:1種目)が全国平均を上回っていた。

- 前述したように、本校は「柔軟性を活かした身体づくり」に力を入れている。柔軟性は筋肉と腱が伸びる能力のことで、競技パフォーマンスの向上に限らず、障害予防や体力向上などにも関係する。本校では「課題に応じた教育活動推進事業」を活用し、平成26年度から令和7年度にわたって、体操競技が専門の講師が継続して配置されている。その専門分野を活かした「柔軟性を活かした身体づくり」の理論や授業実践などは、保健体育科の指導の手本になっている。
- 令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の生徒質問項目における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を次に表す。本校では、「課題に応じた教育活動推進事業」で市費常勤講師の配置(保健体育、TTの指導)をしていただき、きめ細かい指導を継続している。令和8年度もTTによる指導効果を上げ、「運動やスポーツすることが好き」という生徒を増加させていきたい。

| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|----|----|------|------|------|------|------|
| 男子 | 学校 | 53.6 | 61.9 | 63.2 | 79.6 | 72.0 |
| | 全国 | 60.6 | 62.1 | 63.4 | 63.5 | 66.4 |
| 女子 | 学校 | 34.9 | 45.2 | 33.1 | 53.5 | 45.3 |
| | 全国 | 43.0 | 44.2 | 43.1 | 43.2 | 43.0 |

- 男子と比較して女子の全国平均を上回る種目が少ないことがあったが、令和6年度は同じレベルになった。しかしながら、女子の運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツに対する意識は、全国平均より低いままである。今後も継続して取り組んでいく。生涯教育を見据え、中学卒業後も自ら健康管理や体力向上を実践できる生徒の育成を行う。

- 令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の生徒質問項目における「1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合」を次に表す。

| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|----|----|------|------|------|------|------|
| 男子 | 学校 | 10.2 | 12.2 | 13.0 | 6.8 | 10.7 |
| | 全国 | 7.4 | 7、8 | 11.0 | 9.2 | 9.4 |
| 女子 | 学校 | 32.0 | 20.5 | 26.3 | 31.0 | 27.7 |
| | 全国 | 17.8 | 17.9 | 24.9 | 21.4 | 21.4 |

- 定期的に発行される「給食だより」では食事による健康管理、「ほけんだより」では基本的な生活習慣の維持による健康管理を、生徒や保護者に伝えてきた。給食時間中の放送では、栄養教諭が給食のメニューの紹介だけに終わらず、季節の食べ物の紹介、生産者や調理員の思いを伝えた。養護教諭は、感染症対策を行いながらの体調不良や怪我をした生徒への対応を行い、各種検診も行った。担当者による安定した食育指導や保健指導により、安心して教育活動が行うことができている。令和6年度より、自己除去が廃止となった。令和7年度末より「食物アレルギー対応システム（つばさ）」を活用している。令和8年度も継続して、食物アレルギーに対する理解を教職員並びに保護者とも深め、取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

《ICTの活用と推進》

- 「深い理解」よりも「とりあえずテストで点をとれるテクニックを教えてしまう」傾向が強くなってきているのではないだろうか。AIの活用は検索には大いに役立つが、「深い学習」にはつながらない。学習は、わからなかったり、できなかつたりしたことが、様々な試行錯誤や他者からのアドバイスにより、わかったり、できるようになるという**主体的な体験**をともなう。「わかった」「できた」という体験は「喜び」をともない、その「喜び」がさらに学習を進めていくモチベーションになっていく。「テクニック」や「AIの活用」の傾向が強くなると、モチベーションが失われ、知的好奇心が失われていく。その結果、何とか理解してもらおうと一生懸命説明しても「長い説明はいいからやり方だけ教えて」という残念な反応が返ってくる。いかに「学ぶ喜び」を感じられる授業実践をつくることができるかが鍵となる。

《働き方改革》

- そのような学びを支援する環境づくりとして、令和4年度からICT機器の活用と整備、教職員の長時間勤務の解消を掲げた。学級担任の業務の軽減をはかるために、副担任をはじめとする全職員に業務を分散している。具体的には、朝と帰りの学活、給食指導、学級活動、道徳の授業を担当だけではなく、副担任もふくめて複数で担当することである。これにより業務が減るだけではなく、精神的な余裕がでてくる。私的な用事（育児、介護、通院、旅行、趣味など）で休暇をとることへのハードルも低くなる。肉体的・精神的な余裕は、次への活力となり、好循環を生み出す。教職員には、業務を全員で取り組むことで、職場に好循環が生み出されることを引き続き理解させていく。「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1および基準2を満たす9月の教員の割合を次に表す。

| | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 基準1 | 34.48 | 27.12 | 31.58 | 42.59 | 42.64 |
| 基準2 | 63.79 | 52.54 | 73.68 | 75.93 | 92.73 |

【基準1】

次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

【基準2】

基準1を原則としつつ、基準1を超えて勤務する場合においても、次のアからエまでの基準を満たすこと

- ア 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること
- イ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること
- ウ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること
- エ 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること

- 教職員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間を確保することを目指す。さらには、教科の専門性を活かす、そしてその専門性を伸ばす学びを教員一人ひとりに求め、互いの教育実践を交流できる働きがいのある職場環境をつくっていく。令和5年度より、校内研究授業を各学年での実施を再開した。一方、管理作業部、事務部、会計年度職員、サポーターはその教育活動を陰ながら支援していく。
- 令和5年4月、校長は**学校グランドデザイン**（【学校教育目標】【学校経営の重点】【目指す学校像】【目指す生徒像】）を示し、教職員で共有し、教育活動を推進した。多様な価値観をもつ職員集団に対して、「学校教育目標」を示すことは重要である。
- 令和5年4月、校長は【学校教育目標】【学校経営の重点】【目指す学校像】【目指す生徒像】を示し、教職員で共有し、教育活動を推進した。令和5年度末から毎年度、次年度に向けて、学校のすべての業務を見直すために、「教職員人事に関するアンケート」を実施している。回答結果や自己評価（目標別シート）を吟味し、次年度の学校運営に活かしていく。令和6年4月に学校経営計画（グランドデザイン）を検討する研修会を行い、本校がめざす「**こども像**」の実現に向けて共通理解をはかった。年度目標の実現に向けて、「校長経営戦略予算」「ブロック化による学校支援事業」「鶴見区教育活動サポート事業」の予算を活用していく。
- 本校では仕事の軽減策として、職員朝会の回数削減（週1回）、職員会議資料のペーパーレス化、部活動指導員の活用、学びサポーターによる学習支援、特別支援サポーターによる自立支援、学校司書と学校元気アップ事業による図書館運営、大学（大阪教育大学、大阪成蹊大学など）の学生および大阪市教員養成講座による現場実習を兼ねた学習支援、鶴見区役所による事業の学習支援、欠席連絡アプリの導入、テスト採点システムの導入などを行っている。また、学級担任の業務の負担軽減策として、給食指導・学級活動・懇談会・道徳の授業などに副担任が積極的に参加して対応してもらっている。副担任による「何か手伝うことはありませんか」という担任への声掛けは**ハッピーワード**であることを確認している。
- 担任と副担任がつながることで、学級の「**心理的安全性**」が高められる。複数の目で生徒一人ひとりを見ることは、**子ども理解を深める**ことにおいても利点がある。また、学級での複数による指導を通して、中堅教員やベテラン教員と若手教員の**教育実践の交流**が生まれてくることが期待される。

- 令和5年12月に、学校のすべての業務を見直すために、教職員対象に「業務に関するアンケート」を実施した。令和6年度より、学校の組織図を一新し、教員一人ひとりの業務に対する意識を高めている。さらには、毎年度末に「運営に関する計画（最終反省）」「学校協議会の評価結果」をもとに、学校の校務分掌を見直し、業務の偏りを修正しつつ、学校の課題を効果的に解消していく。令和8年度は、肥大化している3つの部会を9つのグループに分けて、話しやすい環境を整備した。令和8年度の1学期に中間評価を行い、走りながら学校運営を修正していく。
- 毎月実施される学校安全衛生委員会では、職員の健康維持や職場環境の改善について意見交流を行っている。長時間勤務の把握や定期健康診断の結果、ストレスチェックの結果については、産業医の意見をもとに職場環境の改善をはかっている。
- 本校は職員数が多いので、一部の職員に業務が集中することを避けるために、職員全員が自覚して少しずつ業務を引き受け、教育活動を進めていくことを年度初めに確認している。令和8年度は、役職（担任、学年主任、〇〇主事）、授業の持ち時間数、テストの作問回数などの**業務が平準化**するように指示した。これらの取り組みにより、職員全員に精神的な余裕ができ、長時間勤務の解消につながると考えている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（90）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（90）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（97）%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 令和11年度末に、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を（65）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（80）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること）」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（90）%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（90）%以上にする。
- 令和11年度末に、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1と基準2を満たす教員の割合をそれぞれ（50）%、（95）%以上にする。
- 令和11年度末に、年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（70）%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（82）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（93）%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（80）%以上にする。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を（60）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（75）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1と基準2を満たす教員の割合をそれぞれ（45）%、（90）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（65）%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

| |
|--|
| |
|--|

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p data-bbox="193 488 459 521">【3つの最重要目標】</p> <p data-bbox="193 533 975 600">【安全・安心な教育の推進】(再掲)</p> <ul data-bbox="181 622 1321 1122" style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(85)%以上にする。 ● 年度目標アンケートにおける「保護者との間にスマートフォン等(インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用(パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む))を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(82)%以上にする。 ● 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(85)%以上にする。 ● 年度目標アンケートにおける「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(93)%以上にする。 <p data-bbox="193 1173 1145 1240">【未来を切り拓く学力・体力の向上】(再掲)</p> <ul data-bbox="181 1263 1321 1720" style="list-style-type: none"> ● 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(80)%以上にする。 ● 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を(60)%以上にする。 ● 年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(75)%以上にする。 ● 年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を(85)%以上にする。 | |

【学びを支える教育環境の充実】（再掲）

- 年度目標アンケートにおける「インターネットや生成A I、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（85）%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1と基準2を満たす教員の割合をそれぞれ（45）%、（90）%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を（65）%以上にする。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【1、安心・安全な教育環境の実現】《いじめ対策》〔生活指導部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いじめへの対応については、「大阪市いじめ対策基本方針」に基づき対処する。 ● スクールライフノートの相談申告機能や毎月のいじめアンケートなどを活用して、いじめの早期発見と早期対応、早期解消を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、対応した割合を100%にし、解消した割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査における「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対して、肯定的な「守っている」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な「理解している」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 | |
| <p>取組内容②【1、安心・安全な教育環境の実現】《不登校対策》〔生活指導部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 別室登校や学習者用端末の活用（オンライン授業や Classroom）などにより、登校支援と学習支援を行う。 ● 全教職員で不登校対応を行う。スクールカウンセラーや鶴見区役所子どもサポートネットなどと連携する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査において、令和8年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ● 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な「思っている」と回答する生徒の割合を（80）%以上にする。 | |
| <p>取組内容③【1、安心・安全な教育環境の実現】《防災減災教育》〔健康安全部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の実態に合わせた「防災計画」を策定し、防災減災教育を推進する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年に3回の避難訓練（地震・火災）を行う。 ● 年度末の校内調査（生徒・保護者）における「あなたは家族で、災害の際の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか」に対して、肯定的な「話し合っている」と回答する生徒の割合を（50）%以上にする。 | |

| | |
|--|--|
| <p>取組内容④【2、豊かな心の育成】《道徳》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいます」と回答する割合を80%以上にする。 ● 年度末の校内調査(生徒)における「道徳の授業では、自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」に対して、肯定的な「楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑤【2、豊かな心の育成】《キャリア教育》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の実態に合わせた「キャリア教育全体計画」を策定し、キャリア教育を推進する。 ● 職業講話・職場見学・職場体験等、職業に関連したキャリア教育を実施する。 ● キャリアパスポートを適切に活用する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な「持っています」と回答する割合を65%以上にする。 ● 年度末の校内調査(生徒)における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な「思います」と回答する割合を90%以上にする。 ● 年度末の校内調査(生徒)における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思っている」と回答する割合を75%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑥【2、豊かな心の育成】《特別支援教育》〔特別支援教育委員会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境整備や支援方法を考慮し、学校全体に困り感がある生徒に対してサポートができるような体制を整える。 ● 過剰な支援ではなく、最小限の生徒支援により、卒業後に自立した学校生活を送られるようにする。 ● 自分の良さを知り、自己肯定感を高めさせる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 連絡帳を使用するなど家庭連絡や保護者・教師間での連携を密にし、生徒の支援体制の改善をはかる。 ● クラスや学年だけではなく学校全体で情報共有し、将来を見据えた支援ができるような相談体制を整える。 ● 学校評価アンケート(生徒用)において【自分には良いところがあると思う】の項目について75%以上の肯定的回答を目指す。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容⑦【2、豊かな心の育成】《芸術鑑賞》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 芸術鑑賞や合唱等の取り組みを各学年、年1回以上実施する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査（保護者・生徒）における「文化的行事は充実していますか」に対して、肯定的な「充実している」の回答の割合を80%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑧【4、誰一人取り残さない学力の向上】《国語科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短歌・俳句・詩・作文等の創作活動により、表現力、書く力を育成する。 ● 漢字・語句・文法事項などの反復練習を行い、小テストを実施することで基礎学力の定着、向上をはかる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の意見を発表する機会を増やす。 ● 小テストを行い、平均点7割以上を目指す。 ● また、ノートやファイルの点検を年間5回以上行い、学習状況を把握する。 | |
| <p>取組内容⑨【4、誰一人取り残さない学力の向上】《社会科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎基本の定着を図りつつ、個々の生徒に応じた思考力・資料活用能力を伸長させる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定期テストでの各観点別出題で、平均正答率を50%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑩【4、誰一人取り残さない学力の向上】《数学科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プリントなどで反復練習、振り返り学習を行い、基礎学力の定着をはかる。 ● 習熟度別、少人数などの分割授業やグループ学習を取り入れ、生徒が主体的に学習し、理解しやすい指導に努める。 ● また、ICT機器の活用をすすめる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元で1回以上、小テストや練習プリントを行う。 ● 定期テストの間違い直しを行う。 ● 定期テストごとに1回以上ノート点検を行い、家庭学習を含めた指導をする。 | |
| <p>取組内容⑪【4、誰一人取り残さない学力の向上】《理科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 科学現象を実際に感じられるよう、できるかぎり多くの実験を行う。学習教材を用いて、基礎学力の定着、向上をはかる。 ● また、ICT機器を用いて視覚・聴覚に訴えかけるような教材提示を適宜行う。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提出物の提出率80%以上を目指す。 ● 定期テスト20点未満を全体の10～15%未満を目指す。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容⑫【4、誰一人取り残さない学力の向上】《音楽科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎・基本の定着を図り、合唱や器楽を通して豊かな感性を育てる。 ● 合唱では、パートリーダーを中心とした活動ができるよう指導する。 ● ICT機器を活用し、興味、関心が持てる教材を精選する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各学期に小テスト、聴き取りテスト、確認テスト・実技テストを行い授業内容の定着をはかる。 ● 提出物（プリント・ノート）の提出率を85%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑬【4、誰一人取り残さない学力の向上】《美術科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てる。 ● ICTを活用しつつ話し合い学習を通じて、理解を深めていく。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業準備を徹底させ、規律ある指導を行う。 ● 表現や鑑賞の機会を増やす。 ● 定期テストを行い授業内容の定着をはかる。 | |
| <p>取組内容⑭【5、健やかな体の育成】《保健体育科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日々の授業において、集団行動を徹底させ、基本的な生活習慣や基礎的な学習態度が定着するように努め、基礎体力の向上をはかる。 ● また、自身の体や体力について関心を持たせるように ICT 機器の活用機会を前年度よりも増加させる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新体力テストの学校平均ポイントが、男女とも6項目において全国平均を上回る。 | |
| <p>取組内容⑮【4、誰一人取り残さない学力の向上】《技術家庭科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製作経験の少ない傾向があるので説明はICTなどを使用し、イメージしやすくなるよう工夫する。 ● 実習は班行動を中心に行い、ともに学びあう授業作りを行う。 ● 実習では衛生面や怪我などの安全面に配慮し、基礎的・基本的な技術を身につけさせる。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実習の時間を全体の授業時間の70%以上取り入れ、生活に役立てるように授業計画を立てる。 ● 実技テストを行い、基礎内容の定着をはかる。 ● 定期テストで20%未満を全体の10%以下になるよう学習内容の定着をはかる。 | |

| | |
|--|--|
| <p>取組内容⑯【4、誰一人取り残さない学力の向上】《英語科》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語の学習を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、言語や文化に対する理解を深める。 ● 教授法を工夫し、すべての生徒が基礎的・基本的な内容を身につける。 ● 教科書の内容理解を4skills(「読む」「聞く」「話す」「書く」)の4領域の活動を通して行い、英語でのコミュニケーション能力の基礎を養う。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各単元に1回以上は既習の単語や文法の小テストを行い、学習内容の確認・定着をはかる。 ● 「チャレンジテスト」が府の平均以上となるように、また、大阪市英語力調査(GTEC)が市の平均以上となるように、学力向上を目指す。 ● 定期テストの20点未満が全体の10%~15%以下になるよう基礎的・基本的な内容についての指導を十分に行う。 | |
| <p>取組内容⑰【4、誰一人取り残さない学力の向上】《総合的な学習の時間》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校外外における体験的な学習の取り組み等を通して、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を行う。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいる」と回答する割合を70%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑱【5、健やかな体の育成】《健康教育・保健室》〔健康安全部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の実態に合わせた「学校保健計画」を策定し、健康教育を推進する。 ● 生徒が規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境の実現をめざす。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、肯定的な「寝ている」と回答する割合を(85)%以上にする。 ● 年度末の校内調査(生徒)における「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な「起きている」と回答する割合を(90)%以上にする。 | |
| <p>取組内容⑲【5、健やかな体の育成】《食育》〔健康安全部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の実態に合わせた「食に関する指導の全体計画」を策定し、食育を推進する。 ● 食育とアレルギー対応の校内研修を年度初めに実施する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「給食は残さず(減らさず)に食べていますか」に対して、「食べている」と回答する割合を前年度(66.6%)上回るようにする。 | |

| | |
|---|--|
| <p>取組内容⑳【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】《情報》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン学習の環境整備を行い、オンラインでの授業実践の研究を行う。 ● 校内研修で、学習用端末を活用した研究授業（オンライン授業をふくむ）を行う。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査（生徒）における「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。 ● 校内研修で、学習用端末を活用した研究授業（オンライン授業をふくむ）を年に1回以上実施する。 | |
| <p>取組内容㉑【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】《働き方改革》〔管理職〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任の業務の軽減をはかるために、副担任をはじめとする全職員に業務を分散する。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を40%（65%）以上にする。 | |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組内容】について

次年度への改善点

【年度目標】について

【取組内容】について

| |
|----------|
| |
| |
| 次年度への改善点 |
| |

令和8年度 学校関係者評価報告書

大阪市立緑中学校 学校協議会

1 総括についての評価

| |
|--|
| |
|--|

2 年度目標ごとの評価

| |
|-------|
| 年度目標： |
| |
| 年度目標： |
| |
| |

3 今後の学校園の運営についての意見

| |
|--|
| |
|--|